

表3. 感染症流行への備え 医療機関

時系列		平常時	第1段階海外発生期	第2段階国内発生早期	第3段階感染拡大期
目的 カテゴリー	目的	1) 発生に備えて体制の整備を行う。 2) 国際的な連携のもと、迅速な情報収集と確認に努める。	1) ウイルスの国内侵入をできるだけ阻止する。 2) 国内発生に備えて体制の整備を行う。	1) 国内での感染拡大をできる限り抑える。	1) 健康被害を最小限に抑える。 2) 医療機能、社会・経済機能への影響を最小限に抑える。 3) 社会・経済機能の回復を図り、流行の第二派に備える。(小康期)
	組織間の連携	●市町村、保健所、医療機関、医師会、消防署、教育委員会等との連絡会をおとした連携強化と情報共有 ●広域災害・救急医療情報システムの活用 ●市町村・連携病院・医師会間の連絡網の作成	●国内発生に向けて、地域での対策本部の設置や受入れ体制の再確認	●地域や各医療機関の対策本部を設置し、関係機関との連携・調整を図る ●行政への情報提供と現場からの提案 ●医師会や近隣の病院、病院内他部門との柔軟なコミュニケーションと連携強化	●地域内医療機関による今後の方針決定と新たな問題への対応 ●終息への準備
	情報管理とマスコニ対策	●WHO、日本感染症研究所、厚生労働省、CDC等のサーベイランス情報の収集 ●来院者への健康教育	●正確な新しい情報収集と来院者および入院患者への情報提供 ●施設内での情報共有 ●マスコミへの情報提供システムの構築	●住民へ受診システムの周知徹底 ●マスコミ対応のための情報収集と情報の整理 ●感染経路や感染力に応じたマニュアルの運用確認 ●マニュアルの運用と適宜更新	●継続した情報収集と地域住民への正しい情報提供
	マニュアル整備と運用	●施設の規模・地域での役割など、各施設の特性をふまえた院内マニュアルづくり ●マニュアルに沿った職員への訓練の実施	●感染経路や毒性型別のマニュアル運用の決定 ●病院の通常機能を維持しつつ、マンパワーを確保する方法の周知 ●マニュアルや訓練内容の再確認	●病院内対策本部の設置 ●感染経路や毒性に応じた必要物品の準備 ●発熱外来の運用とマンパワーの確保 ●受入れ病床の確保	●サーベイランス情報を活用したマニュアルの運用と評価
看護活動	組織づくり	●看護部内の対策マニュアルの作成とシミュレーションの実施	●防疫体制の整備 ●患者受入れのための初動体制の準備	●院内対策本部の設置 ●感染経路、感染力に応じた必要物品の準備と確認 ●発熱外来の運用とマンパワーの確保 ●受入れ病床の確保	●現場対応の情報収集と評価 ●対応オの長期化に伴うマンパワーの調整
	感染者・濃厚接			●有症者への簡易検査とPCR検査の実施 ●濃厚接触者へ抗ウイルス薬の予防的投薬 ●感染症病棟、発熱外来勤務者への予防的な投薬	●有症者への簡易検査の実施
	患者の健康管理と健康教育	●院内感染対策に関するポスター掲示やパンフレットの設置	●疑似症状や感染地域への渡航歴がある患者への注意喚起 ●患者へ感染のリスクを最低限にする呼びかけ ●マスコミを活用した正しい感染対策の伝達	●入院患者への院内感染予防活動 ●自宅療養感染者の病状把握と適切な治療 ●自宅療養者に対する健康教育 ●隔離入院患者への説明と同意 ●面会制限の実施	●入院患者への院内感染予防活動 ●ワクチン接種及び各種証明書発行の広報 ●面会制限の実施
	看護管理	●看護師スタッフの健康状態の把握と感染予防の徹底	●看護師スタッフの健康状態の把握と感染予防の徹底 ●患者の状態把握	●職員の健康管理と業務管理 ●PPEの徹底 ●備蓄用食品の確保 ●職員のストレス管理	●職員の健康状態把握と労務管理 ●発熱外来閉鎖の検討 ●ワクチン外来開設の検討 ●院内感染が起こらないよう、細心の注意が必要
お非 ける 流行 先地 域 対 に				●行政指針に対する現場からの提案 ●地域関連機関内での経験知の共有 ●感染予防に必要な物品の整備	●行政指針に対する現場からの提案